

# 島根県の経済動向

令和6年8月分

統 第 1 2 4 号 の 7  
令和 6 年 1 1 月 5 日

政策企画局統計調査課

## — 島根県の経済は、一部に弱い動きがみられるものの、 持ち直しの動きが続いている —

生産活動は持ち直しに向けた動きがみられる。雇用情勢は改善の動きが続いている。個人消費は持ち直しの動きに足踏みがみられる。投資動向は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

※矢印の向きは、先月分からの動き（↑上向き、→同水準、↓下向き）を示しています。

生産活動	⇒	～持ち直しに向けた動き～	鉱工業生産指数（季節調整済指数）は94.1で前月比は▲7.0%低下し、前年比は▲0.7%と2か月ぶりに下回った。 生産活動は、持ち直しに向けた動きがみられる。
雇用情勢	⇒	～改善の動き～	雇用面は、有効求人倍率は1.43倍で前月を0.01ポイント下回った。新規求人数は▲13.5%と2か月ぶりに前年を下回った。所得面は、現金給与総額は▲0.3%と20か月ぶりに前年を下回った。きまって支給する給与は2.4%と20か月連続で前年を上回った。 雇用面、所得面とも、改善の動きが続いている。
個人消費	⇒	～持ち直しの動きに足踏み～	商業6業態販売額は2.0%と2か月ぶりに前年を上回った。新車登録台数は▲5.7%と8か月連続で前年を下回った。 個人消費は、持ち直しの動きに足踏みがみられる。
投資動向	⇒	～持ち直しの動きに足踏み～	建築着工床面積（非居住用）は▲34.1%と2か月連続で前年を下回った。公共工事請負金額は6.5%と2か月ぶりに前年を上回った。新設住宅着工戸数は▲34.2%と2か月連続で前年を下回った。 投資動向は、持ち直しの動きに足踏みがみられる。
企業倒産		～倒産件数 1件～	企業倒産件数は1件。負債総額は1億5000万円。
金融情勢		～貸出金残高は対前年3.2%増～	銀行預金残高は、93か月連続で前年を上回った。 銀行貸出金残高は、19か月連続で前年を上回った。
物 価		～対前年3.9%上昇～	消費者物価指数（生鮮食品を除く総合指数）は108.6となり、前年比3.9%の上昇となった。
その他 (参考)	島根県景気動向指数（CI） （令和6年11月5日公表）		CI先行指数は96.8となり、3か月連続の下降となった。 CI一致指数は112.4となり、3か月ぶりの下降となった。
	毎月勤労統計調査 （令和6年10月28日公表）		実質賃金（現金給与総額）は▲4.6%と3か月ぶりに前年を下回った。 実質賃金（きまって支給する給与）は▲1.9%と2か月連続で前年を下回った。
	法人企業景気予測調査結果 （令和6年9月12日公表）		財務省松江財務事務所が公表した現状（令和6年7～9月期）の景況判断BSIは、5.8ポイントと「上昇」超に転じている。 令和6年度の設備投資計画は、前年度比▲18.4%の減少見込みとなっている。（製造業 ▲25.0%、非製造業 3.1%）

経 済 指 標		前年同月比（%） ただし*は除く。					
		3月	4月	5月	6月	7月	8月
生産活動	* 鉱工業生産指数（季節調整済指数）	93.0	95.8	95.5	95.7	101.2	94.1
	* "（前月比）	▲5.5	3.0	▲0.3	0.2	5.7	▲7.0
	"（前年同月比）	▲3.0	3.4	4.5	▲4.6	10.9	▲0.7
雇用情勢	* 有効求人倍率（倍）	1.51	1.45	1.41	1.44	1.44	1.43
	新規求人数	▲3.0	▲10.0	▲4.9	▲10.7	2.1	▲13.5
	常用労働者数	1.3	0.9	1.0	1.1	1.0	1.0
	現金給与総額（名目）	2.6	0.8	2.8	3.9	3.6	▲0.3
	きまって支給する給与（名目）	3.2	1.5	2.7	2.9	1.4	2.4
	所定外労働時間（製造業）	▲5.3	0.0	5.8	2.6	8.8	14.5
個人消費	商業6業態販売額	1.0	▲1.6	▲1.6	0.9	▲3.4	2.0
	乗用車新車登録台数	▲24.6	▲15.4	▲7.8	▲13.0	▲0.3	▲5.7
	出雲空港利用者数	▲2.0	5.0	▲3.1	▲7.4	6.3	▲1.6
投資動向	建築着工床面積（非居住用）	674.5	149.5	▲61.1	59.0	▲62.9	▲34.1
	公共工事請負金額	▲12.4	51.8	35.7	27.3	▲40.7	6.5
	新設住宅着工戸数	31.3	▲45.3	25.4	52.4	▲2.5	▲34.2
企業倒産	* 企業倒産件数（件）	3	4	11	2	8	1
	* 負債総額（百万円）	112	352	421	134	569	150
金融情勢	銀行預金残高	2.1	0.8	1.7	3.9	2.2	2.3
	銀行貸出金残高	2.2	1.7	2.9	3.5	3.3	3.2
物 価	* 消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）	106.5	107.1	107.5	107.5	108.1	108.6
その他	* 景気動向指数（CI先行指数）	96.5	96.9	106.0	104.1	101.6	96.8
	* 景気動向指数（CI一致指数）	118.3	116.1	111.3	114.9	116.5	112.4
	実質賃金（現金給与総額）	0.2	▲1.6	▲0.1	1.1	0.6	▲4.6
	実質賃金（きまって支給する給与）	0.9	▲0.9	▲0.1	0.2	▲1.7	▲1.9

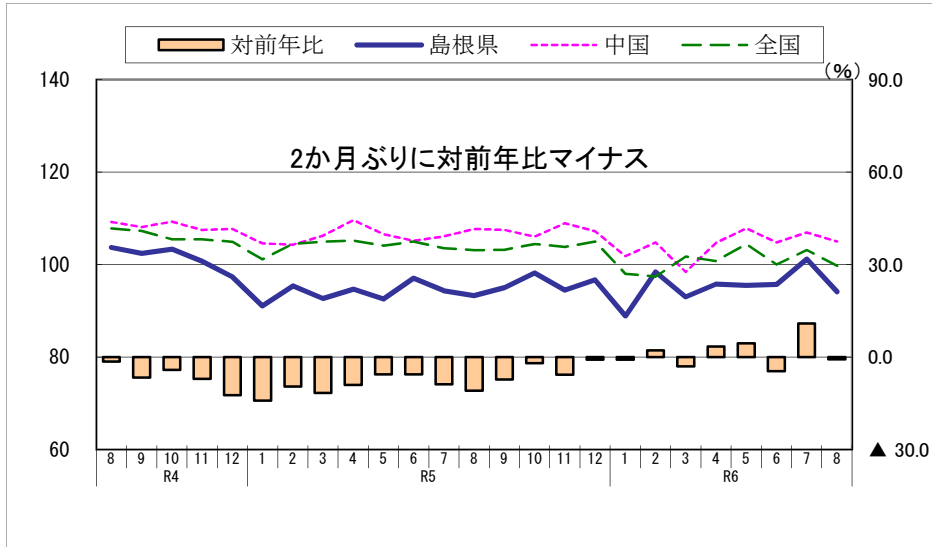
## 経済動向に関する他機関の公表資料（抜粋）

全 国	「月例経済報告（内閣府）」 令和6年10月29日
	<p>景気は、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人消費は、一部に足踏みが残るものの、このところ持ち直しの動きがみられる。</li> <li>・ 設備投資は、持ち直しの動きがみられる。</li> <li>・ 輸出は、おおむね横ばいとなっている。</li> <li>・ 生産は、このところ横ばいとなっている。</li> <li>・ 企業収益は、総じてみれば改善している。</li> <li>・ 雇用情勢は、改善の動きがみられる。</li> <li>・ 消費者物価は、緩やかに上昇している。</li> </ul> <p>先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。</p>
中 国 地 方	「中国地域の経済動向（中国経済産業局）」 令和6年10月17日
	<p>～ 持ち直しの動きに足踏み感がみられる～</p> <p>中国地域の経済は、生産は緩やかな持ち直しの動きがみられる、個人消費は持ち直しの動きに足踏み感がみられる、雇用は有効求人倍率は前月と同じ、新規求人数は前月比で減少など、全体として、持ち直しの動きに足踏み感がみられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生産動向 …緩やかな持ち直しの動きがみられる</li> <li>2. 個人消費 …持ち直しの動きに足踏み感がみられる</li> <li>3. 雇 用 …有効求人倍率は前月と同じ、新規求人数は前月比で減少</li> <li>4. 景 況 感 …現状、先行きともに前月に比べ上昇</li> <li>5. 貿 易 …輸出、輸入とも前年同月比で増加</li> <li>6. 建設動向 …公共工事、住宅建設ともに前年同月比で減少</li> <li>7. 企業倒産 …件数は前年同月比で減少、負債総額は前年同月比で増加</li> <li>8. 設備投資 …2024年度計画は前年度を上回る見込み</li> </ol>
山 陰 地 方	「山陰の金融経済動向（日本銀行松江支店）」 2024年10月1日
	<p>山陰の景気は、持ち直している。最終需要をみると、個人消費は、回復している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。設備投資は、増加が一服している。公共投資は、緩やかに増加している。製造業の生産は、弱めの動きとなっている。この間、雇用・所得環境をみると、持ち直している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人消費は、回復している。</li> <li>・ 住宅投資は、弱めの動きとなっている。</li> <li>・ 設備投資は、増加が一服している。</li> <li>・ 公共投資は、緩やかに増加している。</li> <li>・ 生産は、弱めの動きとなっている。</li> <li>・ 雇用・所得環境をみると、持ち直している。</li> </ul>
山 陰 地 方	「山陰経済動向（株式会社山陰合同銀行）」 2024年10月31日
	<p>海外景気の減速の影響などから、生産活動に弱い動きが残るものの、公共投資が堅調に推移し、個人消費の一部が上向くなど、総じて持ち直しの動きがみられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共投資は、堅調な動きとなっている。</li> <li>・ 設備投資は、2023年度は、全産業では前年度比46.7%増となっており、2024年度は全産業で同7.2%減と前年度を下回る計画となっているものの、投資額は高めの水準となっている。</li> <li>・ 住宅建設は、横ばい圏の動きとなっている。</li> <li>・ 個人消費は、一部に上向きの動きがみられる。</li> <li>・ 生産は、部品や原材料の供給不足や価格上昇などによる影響は和らいでいるものの、弱い動きがみられる。</li> <li>・ 雇用情勢は、弱い動きとなっている。</li> <li>・ 企業の業況判断は、足元、全産業で悪化となった（前回8.3→今回▲2.0）。先行きについては、全産業で改善の見通し（今回▲2.0→先行き10.2）</li> </ul>
島 根 県	「島根県の経済情勢（財務省松江財務事務所）」 令和6年8月6日（四半期ごとに公表）
	<p>県内経済は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人消費 一部に弱さがみられるものの、持ち直している</li> <li>・ 生産活動 一部に弱い動きがみられ、一進一退の状況にある</li> <li>・ 雇用情勢 持ち直しの動きに一服感がみられる</li> <li>・ 公共事業 前年度を上回る</li> <li>・ 設備投資 6年度は前年度を下回る見込み</li> <li>・ 企業収益 6年度は増益見込み</li> </ul>

# 経済指標の推移

## 【生産活動】 ～持ち直しに向けた動き～

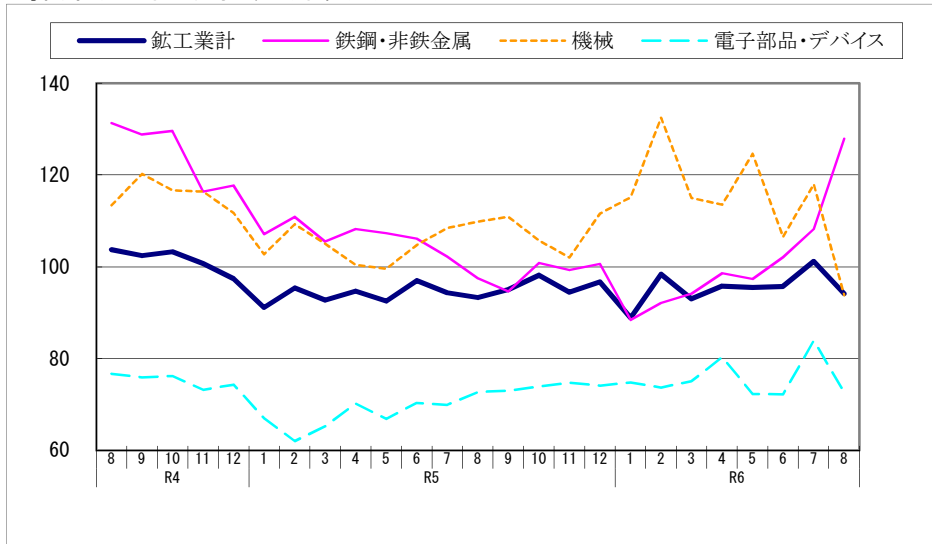
鉱工業生産指数（季節調整済 令和2年=100）



（注）対前年比は、島根県の原指数

（県統計調査課、経済産業省）

## 島根県鉱工業生産指数（業種別）

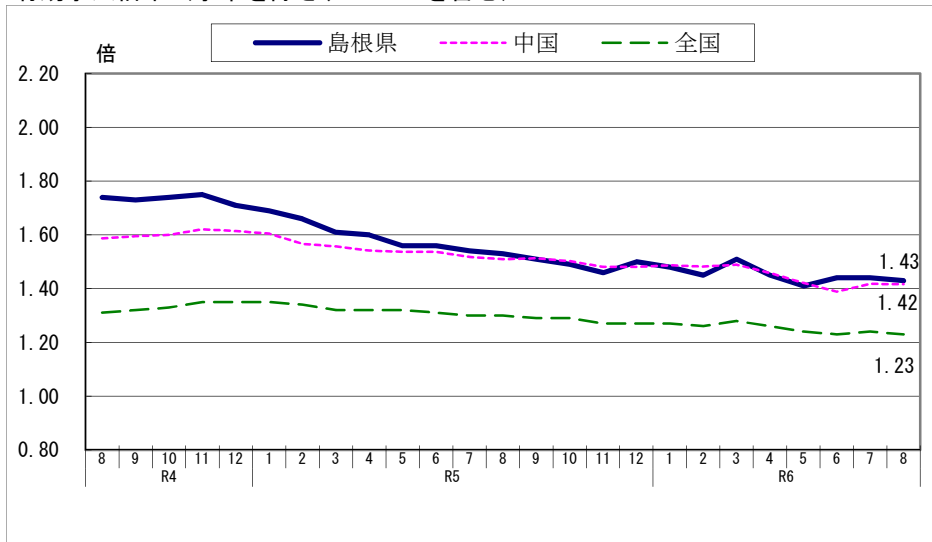


（注）機械とは、汎用・生産用・業務用機械工業である

（県統計調査課）

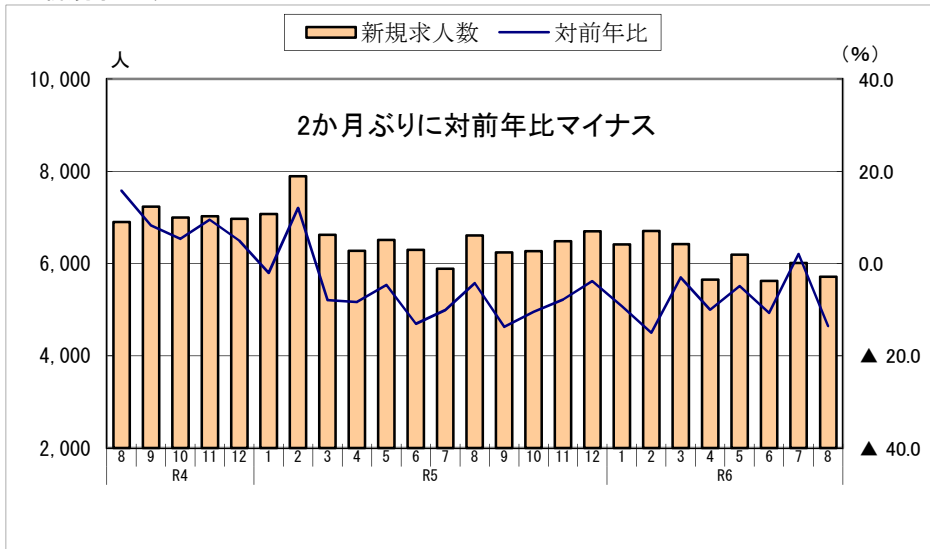
## 【雇用情勢】 ～改善の動き～

有効求人倍率（学卒を除き、パートを含む）



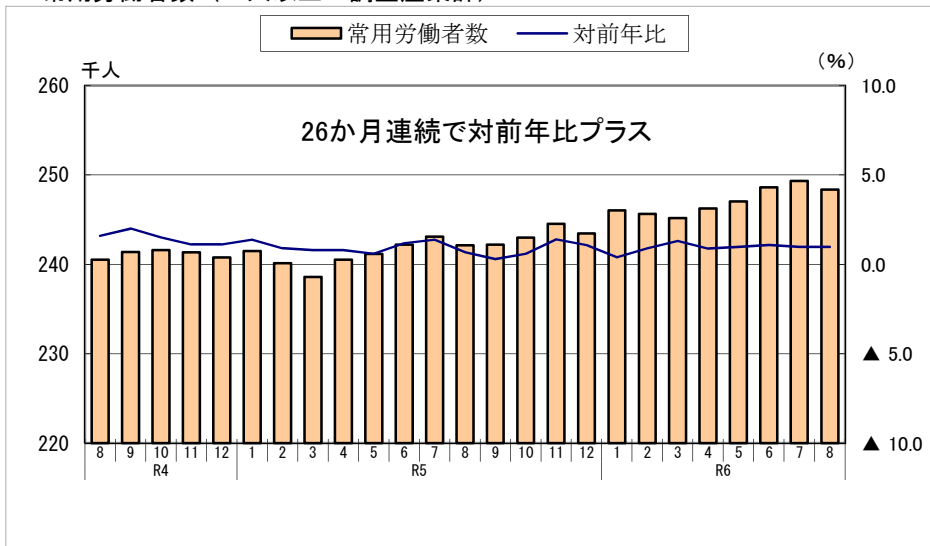
（厚生労働省）

【 雇用情勢 】 ～改善の動き～  
新規求人数



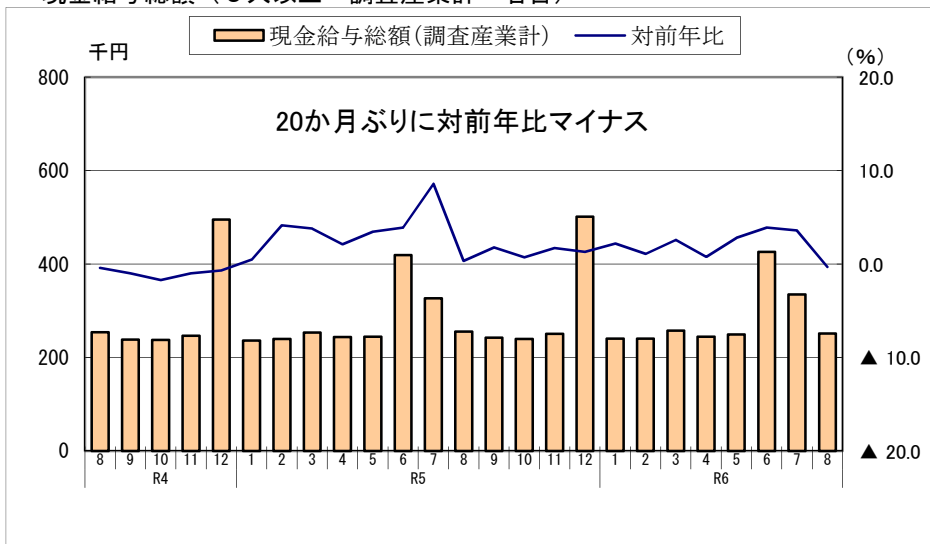
(島根労働局)

常用労働者数 (5人以上・調査産業計)



(県統計調査課)

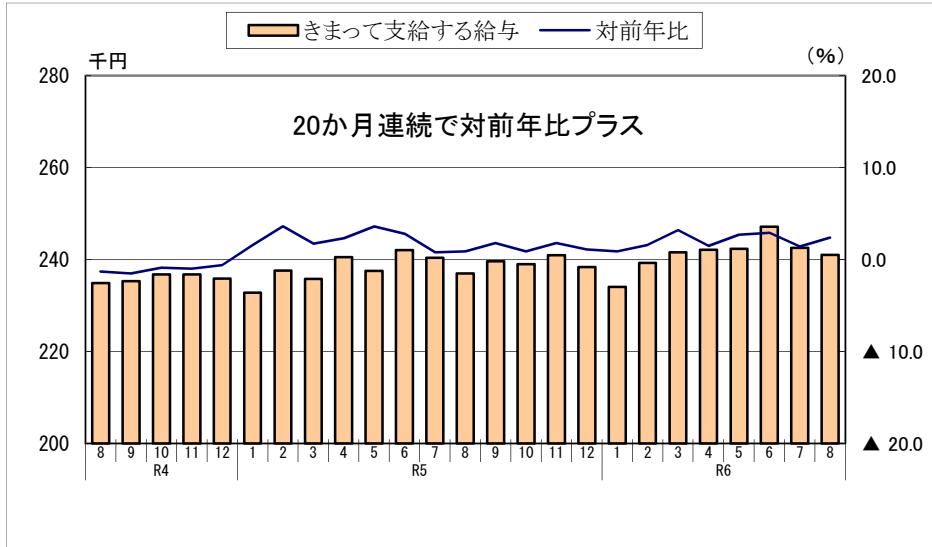
現金給与総額 (5人以上・調査産業計・名目)



(県統計調査課)

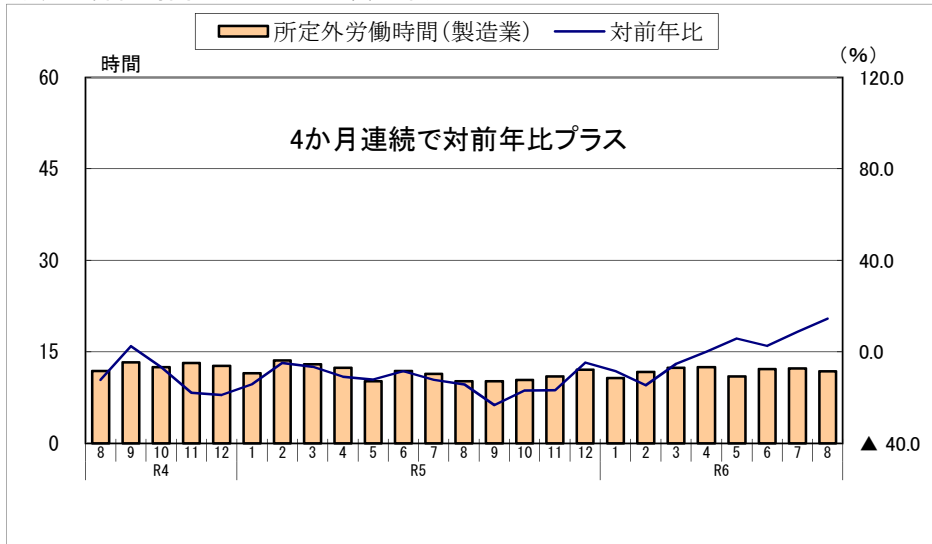
【雇用情勢】 ～改善の動き～

きまって支給する給与（5人以上・調査産業計・名目）



(県統計調査課)

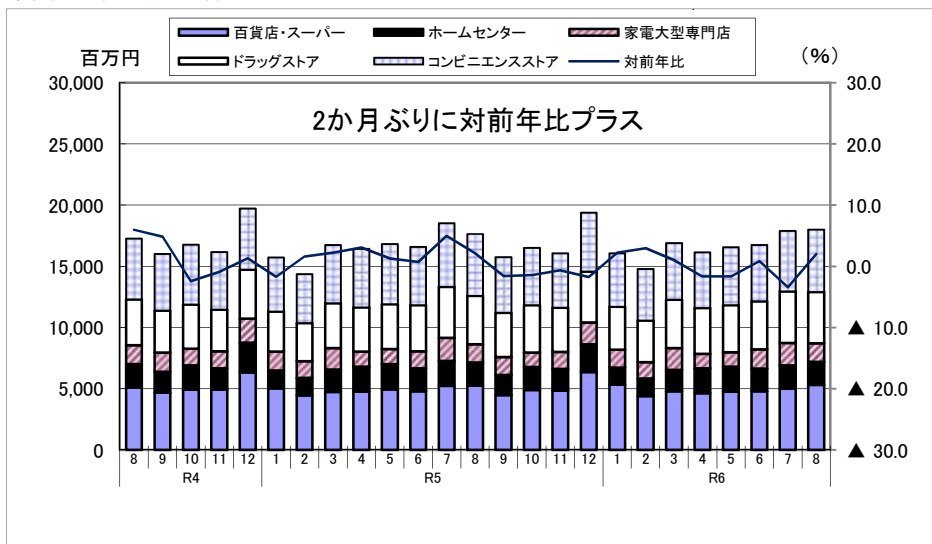
所定外労働時間（5人以上・製造業）



(県統計調査課)

【個人消費】 ～持ち直しの動きに足踏み～

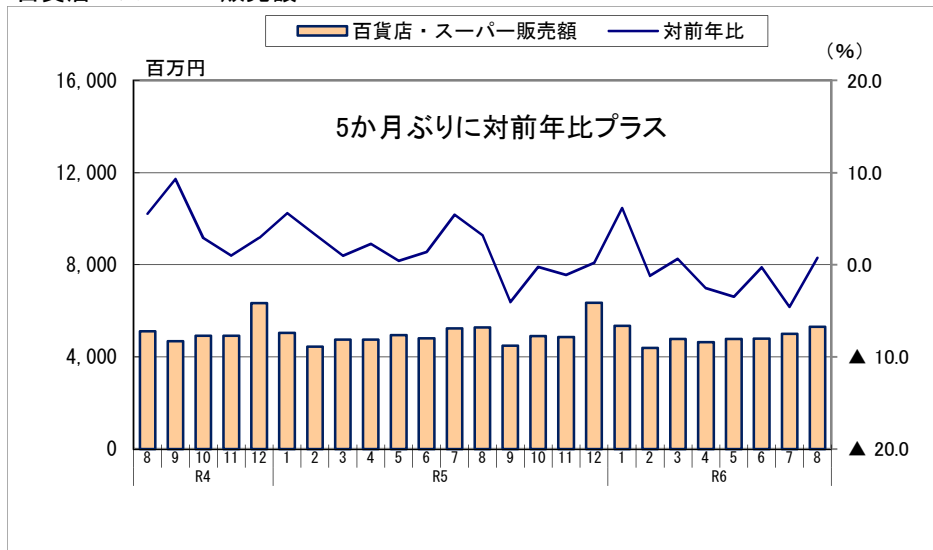
商業6業態販売額



(経済産業省)

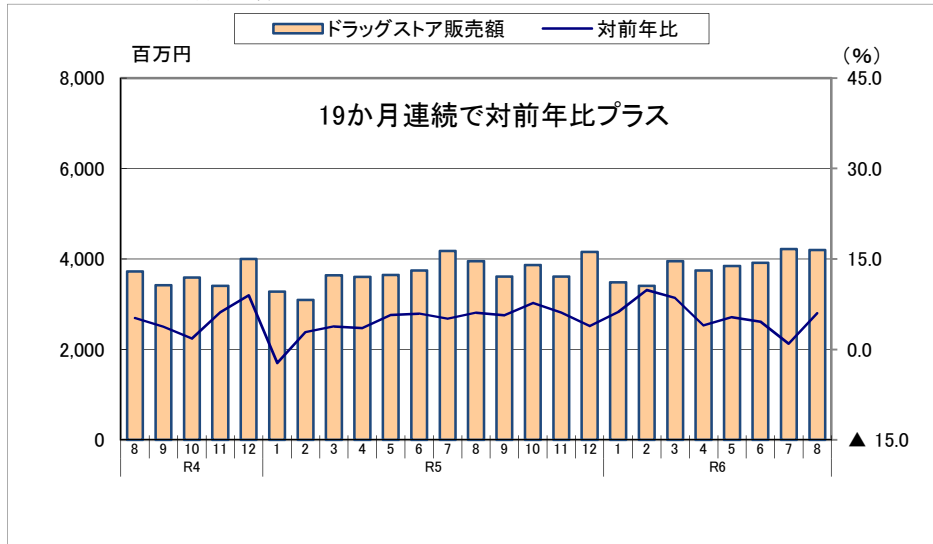
【 個人消費 】 ～持ち直しの動きに足踏み～

百貨店・スーパー販売額



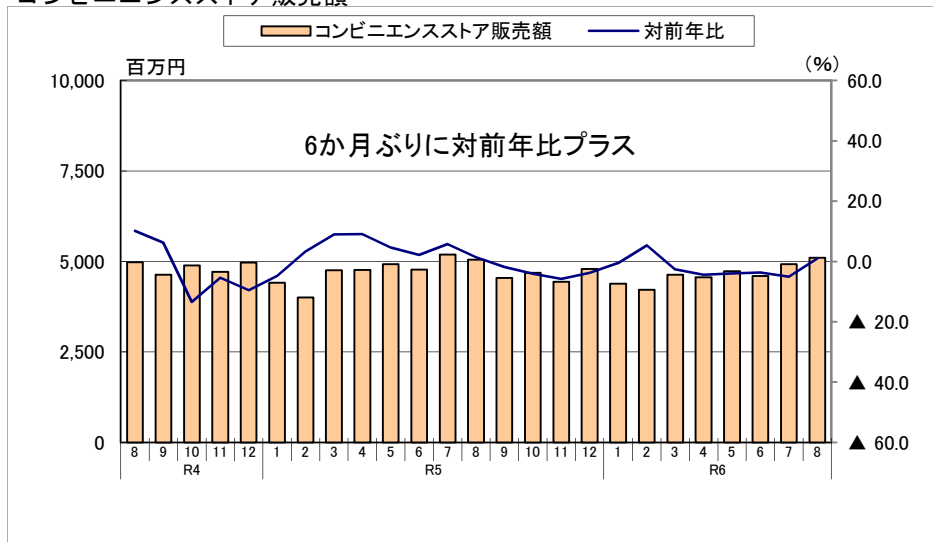
(中国経済産業局)

ドラッグストア販売額



(経済産業省)

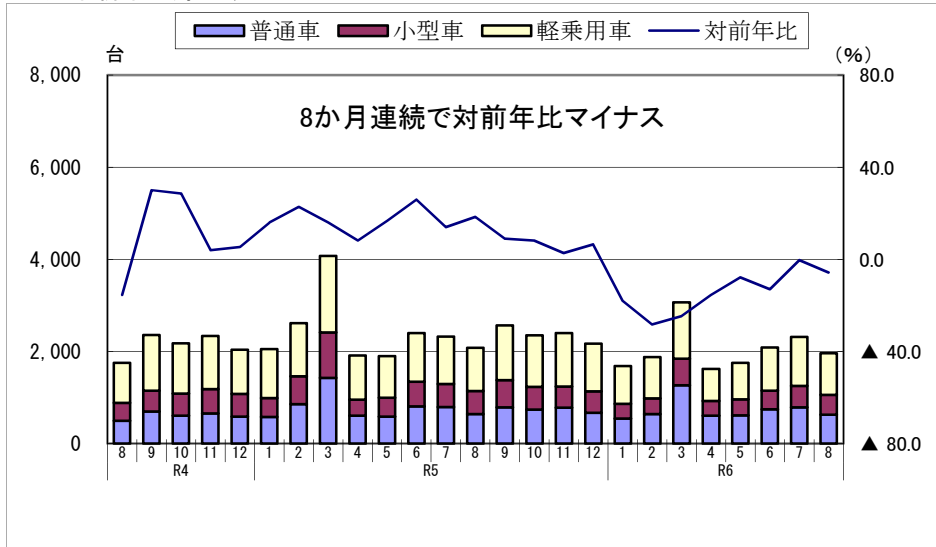
コンビニエンスストア販売額



(経済産業省)

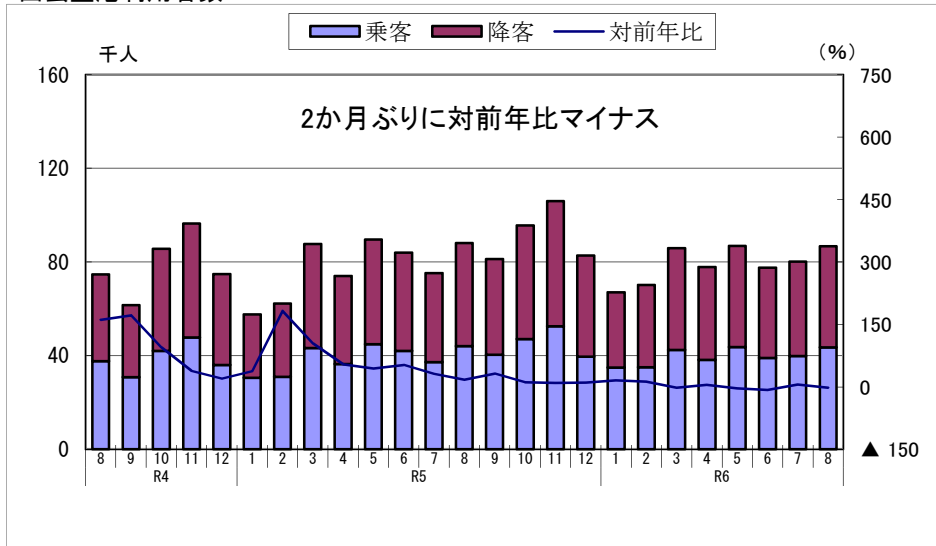
【 個人消費 】 ～持ち直しの動きに足踏み～

乗用車新車登録台数



(中国運輸局)

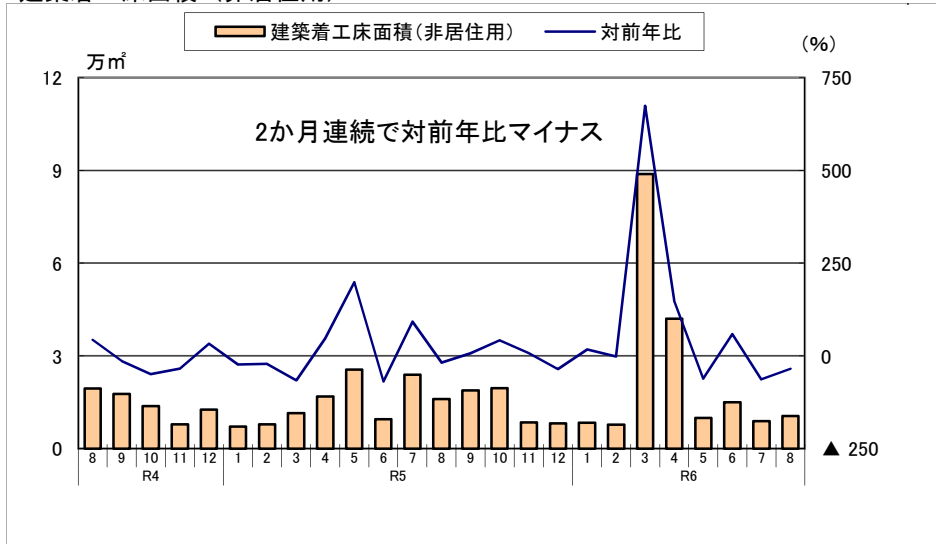
出雲空港利用者数



(県港湾空港課)

【 投資動向 】 ～持ち直しの動きに足踏み～

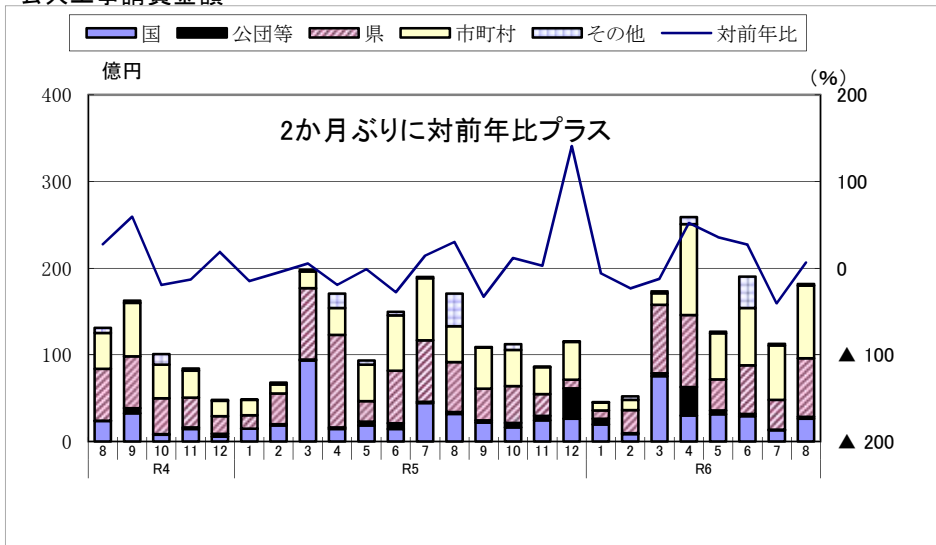
建築着工床面積（非居住用）



(国土交通省)

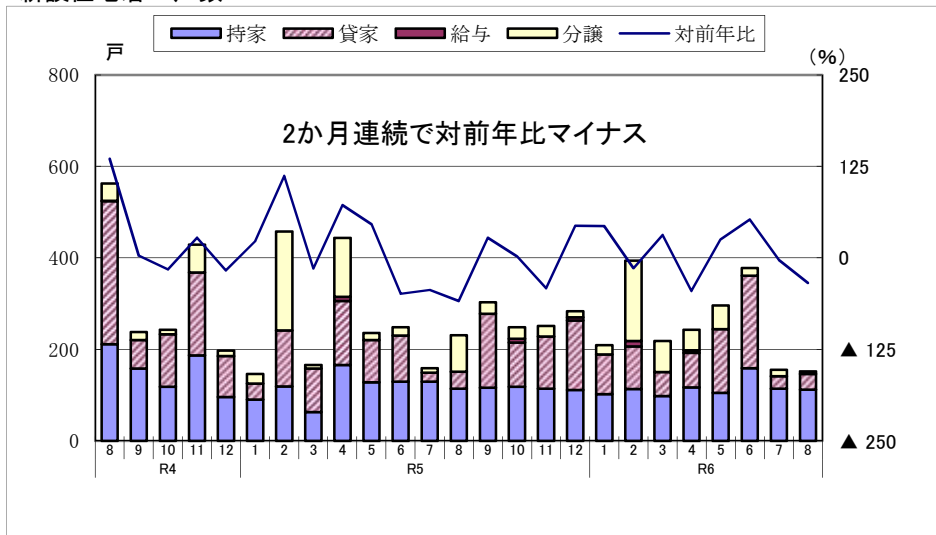
【投資動向】 ～持ち直しの動きに足踏み～

公共工事請負金額



(西日本建設業保証㈱)

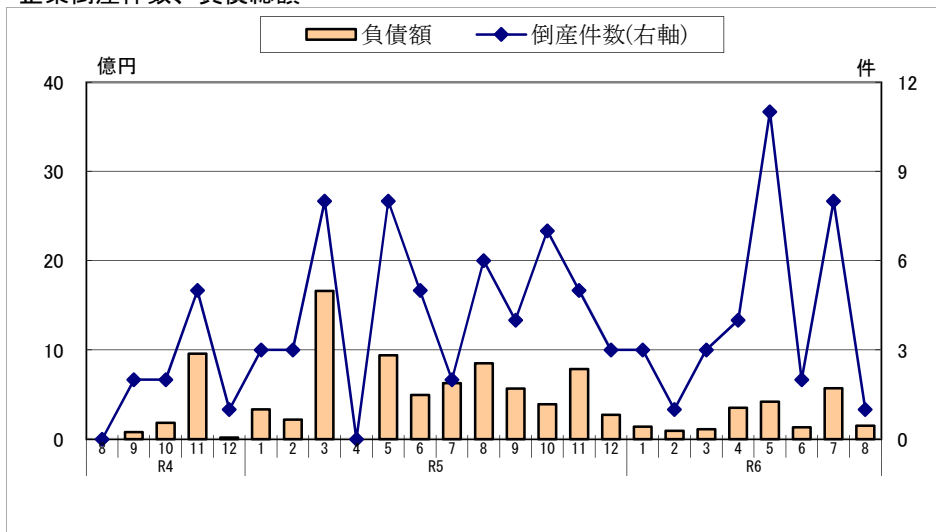
新設住宅着工戸数



(国土交通省)

【企業倒産】 ～倒産件数1件～

企業倒産件数、負債総額



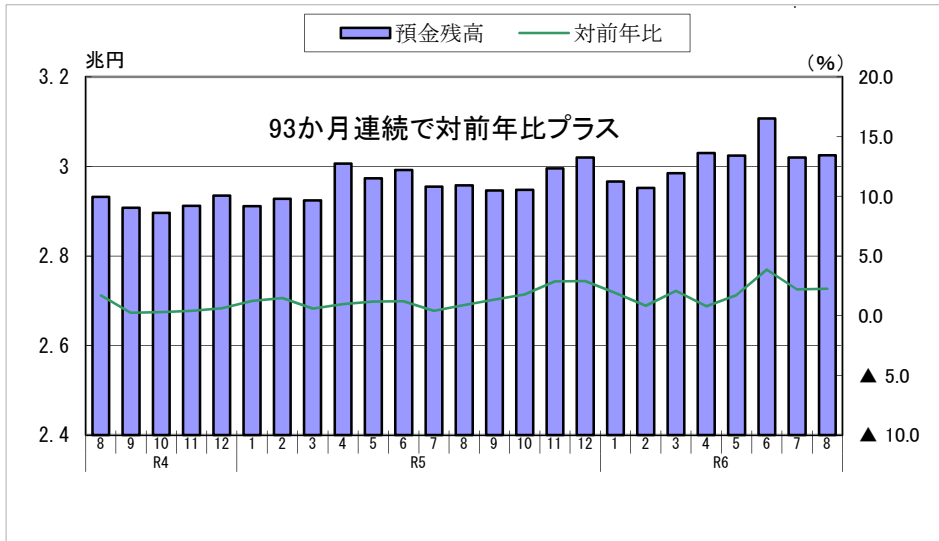
(㈱東京商工リサーチ)



【金融情勢】

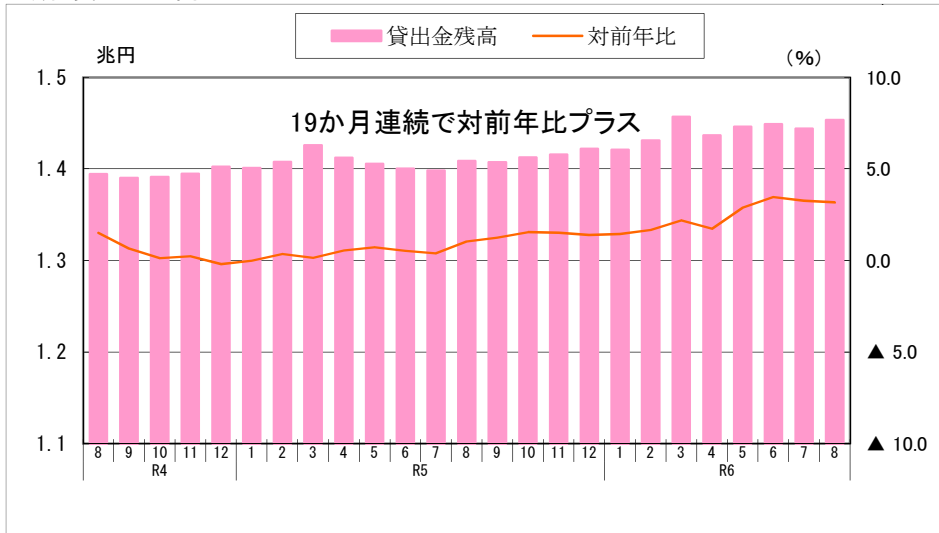
～貸出金残高は対前年3.2%増～

銀行預金残高



(日本銀行)

銀行貸出金残高



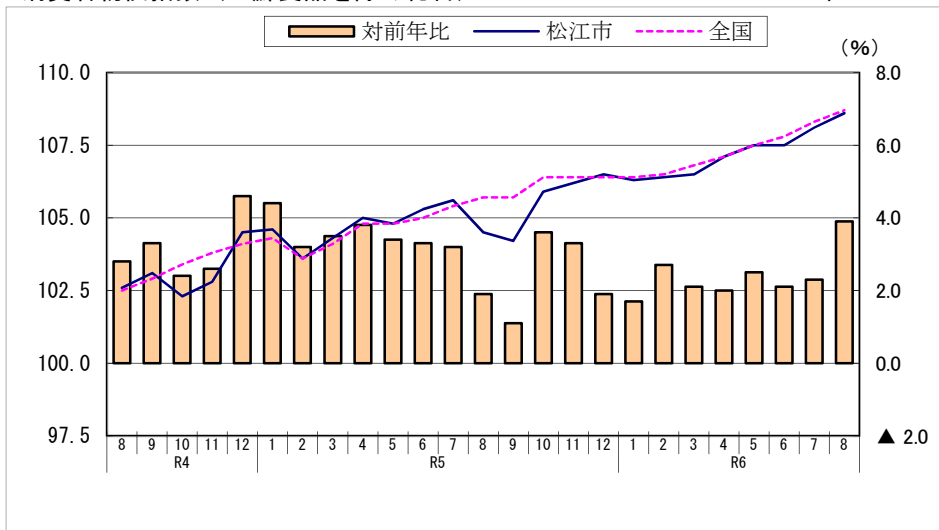
(日本銀行)

【物 価】

～対前年3.9%上昇～

消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）

2020年=100

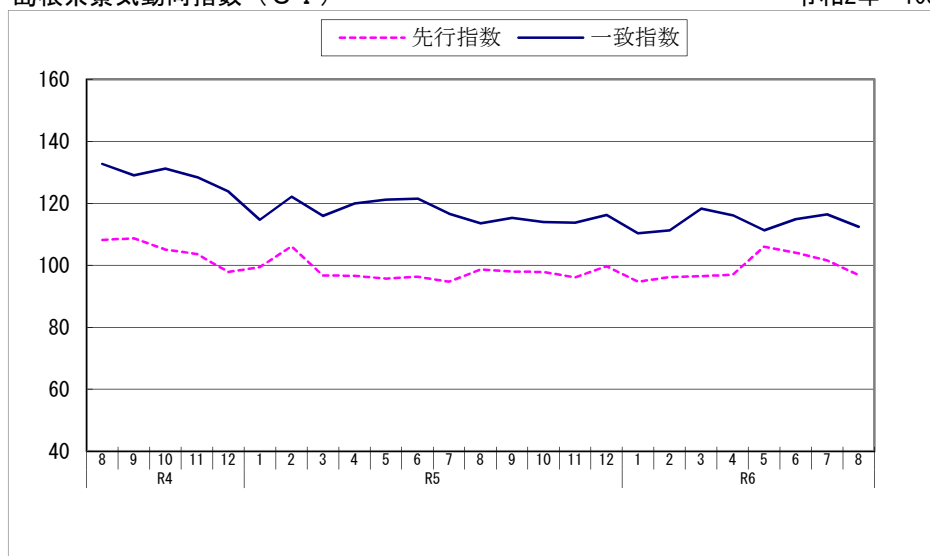


(総務省統計局)

【その他(参考)】

島根県景気動向指数 (C I)

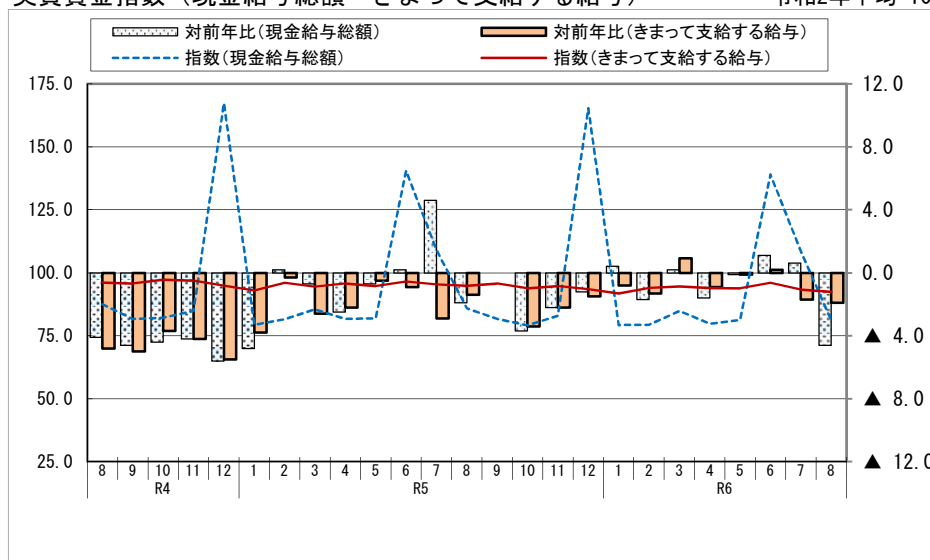
令和2年=100



(県統計調査課)

実質賃金指数 (現金給与総額・きまって支給する給与)

令和2年平均=100



(県統計調査課)

法人企業景気予測調査結果 (令和6年9月12日 財務省松江財務事務所)

令和6年7～9月期調査

景況判断BSI

(BSI: 前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比)

(%ポイント)

区分	6年4～6月 前回調査	6年7～9月 今回調査	6年10～12月 見通し	7年1～3月 見通し
全産業	▲ 1.0	( 11.8) 5.8	( 2.0) 6.8	▲ 5.8
製造業	▲ 24.3	( 16.2) 17.1	( 0.0) ▲ 11.4	▲ 11.4
非製造業	12.3	( 9.2) 0.0	( 3.1) 16.2	▲ 2.9
大企業	0.0	( ▲16.7) ▲ 16.7	( ▲16.7) ▲ 16.7	▲ 16.7
中堅企業	0.0	( 19.4) 17.6	( 0.0) 0.0	5.9
中小企業	▲ 1.7	( 10.0) 1.6	( 5.0) 12.7	▲ 11.1

※ ( ) 書きは、前回(6年4～6月期)調査時の見通し